

---

雨。

ひらま

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雨。

### 【Nコード】

N4224BA

### 【作者名】

ひらま

### 【あらすじ】

「雨」を自分から浴びたいと思う人はそうそういないと思います。私も、自分から浴びに行こうとは思いません。でも、こうやって日々を生きていると、雨を浴びざるを得ない瞬間には誰しも出くわしてしまうもので。そういった場面で、雨に負けずにいられるかというのは、私の人生の中でも最大級の難問だったりするのです。

ふりしきる雨。  
つめたい雨。  
粒の大きな雨。

雨が私の身体にぶち当たる。  
時にしつこく、時に激しく。  
私をいやらしく責めたてる。

痛い、痛い、痛い！  
この責めはいつまで続くのだろう。  
お願いだからもうやめて。

不意に雨が止む。  
見上げると、そこには傘があり。  
傘が、雨から私を守ってくれている。

雨がなくなった。  
それだけで、心の奥底から温かい何か  
が溢れてきたような気がする。

これ以上、痛い思いはしたくない。  
違う。  
そうじゃない。  
私は雨にうたれないといけないんだ。

雨にうたれて、こごえて、苦しんで。  
あるがままを受け止めなくてはいけない。

あの人がそうであったように、私も。

雨が止む気配はない。

思い切って傘から出てみると。

もう一度、つめたい雨の存在を感じるようになった。

肩に、腕に、手のひらに。

脚に、胸に、首筋に。

頭のとっぺんからつま先まで。

雨足は強くなる一方。

粒たちが全身に突き刺さる。

身体中に雨音が響く。

痛い、痛い、痛い、痛い！

もう、どうなっても仕方がない。

たとえ死んでしまっても構わない。

この雨は、私への罰なのだから。

何もできなかった私への、

手を伸ばさなかった私への、

天から届いた、私への、

罰なのだ。

(後書き)

お読みいただきましてありがとうございます。  
初投稿で、思いつきだけで突っ走ると……こうなります。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4224ba/>

---

雨。

2012年1月11日03時45分発行